

第1234号

株式会社 茨城木材相互市場

2022

那珂川 NEWS

10

育てませんか あなたと私の Wood コミュニケーション

日刊木材新聞 令和4年9月22日号より
関東の国産材製材・丸太

杉 KD8万円台で底値探り

関東の国産材製材は下げ圧力が緩和し、底値探りが始まった。9月に入り市売の中心相場は杉KD特等で8万円台に下落した。しかしこれ以上の軟化に対して、製材工場から採算割れの危機感が噴出し始めた。一方、9月に入り北関東の原木相場は下げ止まり感が出てきた。例年秋から製材工場は新材の在庫意欲を強めるため、原木相場が上がり始める。製品安・原木高が進めば、製材工場の収支は厳しくなりかねない情勢にある。

原木反発の兆し、製材コスト圧迫

6~8月と南関東の市売は、柱や羽柄のKD 特等を9万~10万円超(立方尺、市場渡し)で突っ張ってきた。しかし月を追うごとに市売や問屋の売上高は減少している。そのうえ8月からは、製材工場からプレカット工場向けの出荷が減り始めた。そのため9月に入ると市売では9万~10万円超の品物が減り、8月まで少なかった8万円台(同)が主流になった。

中心相場は杉の柱3寸x105ミリ角がKD 特等で8万5000円前後(同)と、前月比5000円~1万円安。もちろん9万円台も残る。首都圏に近い市売ではまだ8万円台(同)を出していない。製材メーカーによる販価のばらつきも大きくなってきた。良品ブランド化したメーカーは9万円超でも売れている。

しかし9月に入り急に販価を落とし始めたメーカー品も目立つ。杉の桁、母屋角、桧の柱・土台ともにKD 特等は杉柱角と同等で推移する。製品種類によらず基本的には120ミリ物は105ミリ物より弱い。

中心相場が8万円台に下落したことで、製材工場からこれ以上の軟化による採算割れへの危機感が噴出し始めた。

一部の桧専門工場は「ウッドショック前は2万円(同)の丸太で6万円の製品を売っていたが、当時に比べ製造コストが

「秋の収穫祭」

10月13日(木)

昼食 12時~ セリ開始 13時~



○毎度ご好評のお楽しみ抽選会開催!!

○優良な木材を多数ご用意致します!!

○ご来市の皆様に記念品を御進呈!!

皆様のご来市を心よりお待ち申し上げます。

上がり製品単価は7万~8万円でないと言わない」と実情を吐露する。運送費はもちろん、工場設備の消耗品は2割以上上がり、電気代は別の製材工場でも年初から月40%以上増加している。杉を挽く大手工場も、現在の杉柱取り丸太1万6000円(同)で製品販価は7万円が限界だと断言する。生産する製品がA品ばかりでないこともある。こうした背景から市売に対して、「これ以上販価が下がれば売らなくていい」という製材工場からの声が出るようになってきた。

そこにはまた原木相場も絡んでいる。9月に入り北関東では虫害丸太の比率が下がり、原木相場が下げ止まりつつある。10月からは伐り旬を迎えて出材が増加する。虫がつかない新材は長期在庫できるため、製材工場の買い気が増して相場は上がるのが通例だ。

しかも今年は原木相場がまだ杉3寸柱取りで1万6000円前後(同)と、ウッドショック前より4000円前後高い。桧3寸柱取りも現在2万円前後。

これ以上製品安・原木高が進行すれば、製材工場の収支を圧迫しかねない情勢にある。

■わたしたちの使命 (SDGs)

(茨城木材の社会的役割)



「消費と生産を結ぶ価値ある架け橋」となる
— 循環型地域環境の創造 —

1. 地域の人々により良い『住環境』を提供すること
2. 茨城県の森林環境を守ること



R4年8月新設住宅着工

	計	持家	貸家	給与住宅	分譲住宅
全国計	77,712	22,291	31,295	954	23,172
前期比	104.6%	88.8%	108.9%	178.7%	116.2%
茨城県	1,696	787	473	13	423
前期比	113.1%	102.6%	105.3%	1,300%	150%

県内市別の状況及びR4年度累計は弊社 Facebook をご覧ください。

[市日予定]

＜ 本 社 ＞

＜ つくば ＞

10月13日(木) 記念市
昼食 12:00 セリ 13:00

10月6日(木) 記念市
20日(木) 記念市